

徳之島事務所（令和7年10月分）管内情勢

農林水産業関連

1 他産地事例調査でたんかん及びパッションフルーツの新たな樹形を学ぶ

10月2～3日に奄美大島・喜界島にて、果樹他産地事例調査を実施し、生産者・関係者計4人が参加した。

奄美大島ではたんかんの省力化及び早期成園化につながる樹形や施肥管理、日焼け果対策などについて学んだ。喜界島ではパッションフルーツの単収向上につながる樹形や苗木育成状況などについて学んだ。

今回の他産地事例調査で学んだたんかん及びパッションフルーツの樹形については当産地でも試験的に導入し、省力化や単収向上に向けた栽培技術を検討していく。



2 ばれいしょ後作さつまいもの実績を検討

10月17日に天城町にて、ばれいしょの後作利用として試験栽培しているさつまいも（品種：あまはづき）の生産性、収益性の検討を実証農家及び天城町と行った。

当課からは実証ほの収量と収益の結果及び今後の課題について生産者からは、栽培した感想等について説明があった。

栽培、販路、推進体制等のそれぞれに課題があり、次年度に向けた取組を検討した。また、今後は天城町だけではなく、先行している伊仙町とも連携を図り、徳之島全体としてさつまいも生産の検討に取り組むこととしている。

3 飼料用トウモロコシの実績を検討

10月16日に徳之島家畜市場にて、徳之島地域総合営農推進本部畜産部会による実績検討会が開催され、生産者、関係者計9人が参加した。

会では3月に開始した飼料用トウモロコシの栽培から牛への給与までの一貫した取組として、収量調査、飼料分析、給与診断、代謝プロファイルテストの結果を基に検討した。栽培面では、ツマジロクサヨトウの被害はなく順調に生育し、天候にも恵まれて5～7t/10aと高単収であり、分析結果も良好であった。給与面では、分娩前後の増飼い期に不足する栄養分があり、改善方策を検討した。

4 ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「しまあかり」栽培面積拡大へ

10月17日及び20日にJAあまみ徳之島・天城事業本部にて、「しまあかり」栽培者に対する説明会を実施した。

昨年度の本品種栽培者は16人で栽培面積は約30aであり、調査で得られたデータを用いた啓発活動を行った結果、本品種に対する理解が進み、本年度は37人で約4haの栽培が行われることとなった。なお、37人のうち14人は昨年度に引き続き栽培する農家であり、全員が栽培面積を拡大する。

本年度は、11月中旬頃から植付けが開始されるが、全てのほ場を展示ほとして活用し、さらなる周知を図る計画である。

5 メロンの若手生産者同士で熱心な議論が行われる

10月23日に天城町の農家ほ場にて、メロン青年組織の現地検討会が開催され、生産者8人と関係者3人が参加した。

当課から、草勢管理や病害虫管理について情報提供を行った後、生産者3人のハウスを巡回して現地検討を行った。各ハウスでは、園主が現在の栽培管理や状況について説明した後、質疑応答形式で情報交換や助言が行われた。

生産者からは「これまで他人のハウスと行き来がなかったため、良

い機会だった」「色々な視点からの意見交換が行われて勉強になった」などの感想が聞かれ、有意義な検討会となった。

